

## 凡例

- 一 本誌は、「自然環境」「歴史」「行政・財政」「産業・経済」「教育」「宗教」「民俗」「文化財・諸芸・観光」「人物」の九編とし、巻末に「年表」を付した。
- 一 各編の記述は、章・節・項・目・細目で構成し、節・項・目・細目の文字は省略した。なお、歴史編は、「原始・古代」「中世」「近世」「近・現代」と、一般的な時代区分によって記述した。
- 一 古文書・引用文等は、本文より小さい活字を使用した。なお、古文書等は、なるべく原本に即し、改行や句読点を施し、文字が磨滅・虫損等で判読できないものは、字数を推定して□□□□のように示した。
- 一 収録した文書には、例（『文書名』所蔵者名）等により表示した。
- 一 年号は、日本年号を用い、適宜（ ）書きで西暦を併記した。
- 一 本文中では、原則として敬語・敬称を省略した。
- 一 本文は常体とし、当用漢字・現代仮名づかいを用い、読みの困難なものは、できるだけふり仮名をつけた。
- 一 索引を省略し、目次を詳細に記載するように努めた。
- 一 人物小伝は、本町出自の方で、地方・地域をとわず活躍した故人に限定して収録した。
- 一 本誌の、関係者ならびに執筆者名は、巻末に一括して掲載した。
- 一 本文中、歴史的用語として差別用語を用いた部分があるが、これは封建支配の事実を正しく理解し、あるべからざる不当な身分差別制度の認識に資するためである。なお、「部落」とあるは、「集落」のことであって古来当地で使われてきた用語であることを付記しておく。

## 目次

口 絵	編纂委員長 塩出 皓治 小松町長 佐伯 出	2 土地利用別面積……………10
口 絵	発行にあたって	4 人口……………10
口 絵	発行を祝して	1 藩政時代の人口……………10
凡 例	小松町議会議長 佐伯 出	2 人口と世帯の推移……………13
		3 地域別人口の推移……………15
		4 人口移動の状況……………16
		5 年齢別人口構成について……………16

## 自然環境編

### 第一章 小松町の位置・境界・面積・

人口……………3	一 地 形……………20
一 位 置……………3	1 地形概観……………20
1 位置と略図……………3	2 扇状地と河岸段丘……………20
2 交通的位置……………4	二 地 質……………21
二 境 界……………5	1 地質概要……………21
三 面 積……………9	2 三波川結晶片岩……………23
1 旧町村別面積……………9	3 和泉層群……………24
	4 岡 村 層（第三紀鮮新世）……………24
	5 第四紀洪積層……………25

### 第二章 地形・地質・水利

- (一) 大谷池層……………25
- (二) 河岸段丘堆積物……………25
- (三) 湯浪層の植物化石……………26
- 6 沖積層……………27
- 7 石鎚山第三紀層……………28
- 8 火成岩……………28
  - (一) 天福寺山火山……………28
  - (二) 安井谷の流紋岩(石英粗面岩)……………29
  - (三) 斑れい岩……………29
- 9 断層……………29
  - (一) 中央構造線……………29
  - (二) 岡村断層(活断層)……………31
  - (三) 南川断層……………31
- 三水 水利……………32
  - 1 水利の概要……………32
  - 2 小松町の河川と水利施設……………32
  - 3 大頭堰……………37
  - 4 大谷池……………40
  - 5 揚水ポンプ……………43

- 6 道前道後水利事業……………44
  - (一) 第一期事業……………44
  - (二) 第二期事業……………46

第三章 気候、自然災害

- 一 気候概説……………50
  - 1 気温……………50
  - 2 降水量……………50
  - 3 風……………52
  - 4 湿度、気圧、日照時間……………54
  - 5 石鎚山付近の気象……………54
- 二 自然災害……………56
  - 1 台風……………56
    - 2 被害の大きかった台風……………57
    - (一) ジェーン台風とキシア台風……………57
    - (二) ケイト台風とルース台風……………58
    - (三) 一七号台風……………59
  - 3 明治以後の自然災害……………60

第四章 生物

- 1 石鎚国定公園の概観……………97
- 2 石鎚山……………98
- 3 石鎚国定公園の重要な動植物……………99
  - (一) 貴重な石鎚山系の植物生態……………99
  - (二) 高山植物……………99
  - (三) 石鎚山系の動物……………99
- 4 石鎚山の生い立ち……………100

歴史編

原始・古代

第一章 小松文化のあけぼの

- 一 先土器時代……………103
  - 二 縄文時代……………105
    - 1 土器等と採集文化……………105
    - 二 草創期……………105
      - (一) 早期……………106
      - (二) 前期・中期……………107
      - (三) 後期……………108
      - (四) 晩期……………110

第五章 国定公園

- 一 自然公園について……………95
- 二 小松町の国定公園(各区分の分布)……………96
- 三 石鎚国定公園……………97

- 三 弥生時代……………111
  - 1 稲作の始まりと弥生文化……………111
  - 2 小松町内の遺跡と出土物……………111
    - (一) 前期(Ⅰ期)……………112
    - (二) 前期(Ⅱ期)……………113
    - (三) 中期前半……………113
    - (四) 中期後半……………116
    - (五) 後期……………119
- 四 古墳時代……………121
  - 1 東予地方における古墳文化の始まり……………121
  - 2 小松町内の古墳……………121
    - (一) 中期古墳……………121
    - (二) 後期古墳……………122
  - 3 小松町内の古墳分布……………126
- 五 小松町内の遺跡発掘調査……………131
  - 1 小松川藤木遺跡の発掘調査……………132
  - 2 大日裏Ⅴ・大谷池東・妙口・鶴来元遺跡……………143
  - 3 明穂東岡・明穂東岡Ⅱ・明穂中ノ岡Ⅲ遺跡……………152

第二章 律令時代の政治と文化……………165

- 一 飛鳥時代の東予地方……………165
  - 1 法安寺跡……………166
- 二 奈良時代……………177
  - 1 律令政治……………177
    - (一) 国府の設置……………177
    - (二) 郡と郷……………178
    - (三) 条里制と開発……………179
    - (四) 太政官道と駅……………179
    - (五) 新宮出土の和同開珎……………183

中世……………183

第三章 武士たちの社会と河野氏……………184

- 一 新居系図と郷土の武士団……………184
  - 1 源平の争乱と伊予の武士団……………189
  - 2 承久の乱と河野氏の没落……………195
    - (一) 討幕の動きと河野通信の動向……………195
    - (二) 動乱の勃発と終結……………196

- 3 元寇の役における河野通有の活躍……………197
  - (一) 弘安の役に通有奮戦……………197
- 4 新居系図による新居八家と井出氏……………198
  - (一) 小松町に關係の深い井手氏……………199
- 5 三嶋神社の旧鎮坐地新宮徳重……………200
- 6 高鴨神社と法安寺の国司祈祭……………201
- 二 南北朝時代……………201
  - 1 南北朝時代の伊予国概観……………201
    - 2 幻城の攻防……………202
      - (一) 細川頼春の伊予侵入……………202
      - (二) 千町ヶ原の戦……………204
      - (三) 法安寺、天福寺等の焼失……………204
      - (四) 細川頼之伊予に侵入……………204
  - 3 河野氏と細川氏の和睦……………205
- 三 戦国時代……………207
  - 1 戦国時代の河野家と家臣団……………207
    - (一) 戦国末期の河野家臣団……………208
    - (二) 東予地方の居館跡、城砦跡……………210
  - 2 戦国時代の東予地方……………210
  - 7 戦国時代の税の収取その他……………247
    - (一) 地侍と旗頭・大名との關係……………247
    - (二) 税の収取……………248
- 6 長宗我部氏の伊予侵入と四国統一……………245
  - (一) 黒川氏が南予に出動……………245
  - (二) 長宗我部元親の四国統一……………246
  - (三) 元親より黒川通博に太刀、馬を贈る……………246
  - (四) 黒川家代々の神仏の崇敬……………241
  - (五) 黒川家代々の神仏の崇敬……………241
  - (六) 宇野軍人正識弘の貴船神社崇敬……………245
- 5 剣山城主黒川氏の勃興……………230
  - (一) 黒川肥前守元春と黒川通矩の盟約……………230
  - (二) 黒川元春(通亮)周敷郡を統一……………232
  - (三) 黒川対馬守通俊の戦死……………233
  - (四) 河野家侍大将黒川通博の奮闘……………235
  - (五) 黒川家代々の神仏の崇敬……………241
  - (六) 宇野軍人正識弘の貴船神社崇敬……………245
- 4 新居郡錯乱……………227
  - (一) 金子城主金子氏の台頭……………227
  - (二) 高峠城主石川氏……………224
  - (三) 細川氏の衰微と三好氏……………223
- 3 新居地方の情勢……………223
  - (一) 東予地方の地侍と旗頭……………210

- (三) 貫高と軍役……………248
- (四) 合戦は農閑期に行った……………249

近世  
第四章 天下統一と領主の交替……………250

- 一 秀吉の四国征伐……………250
  - 1 長宗我部元親の妥協工作と迎撃体制……………251
  - 2 東予地方の動向……………253
    - (一) 高峠城内の評議……………253
    - (二) 周布・桑村両郡の侍たちの動き……………254
  - 3 秀吉四国征伐第三軍毛利軍団の伊予攻撃……………256
    - (一) 小早川軍に加勢した宇野一族と獅子鼻城主討死……………256
    - (二) 高尾城の攻略……………257
  - 4 河野氏討伐……………260
    - (一) 周布・桑村両郡の掃討……………260
    - (二) 河野氏の降伏と伊予平定……………262
  - 5 天正陣戦没者の供養とその伝承……………263
- 二 秀吉の家臣たちの統治……………263
  - 1 小早川隆景……………264

- (一) 在 職……………264
- (二) 主な内政の事績……………265
- 2 福島正則……………265
  - (一) 在 職……………265
  - (二) 主な内政の事績……………266
- 3 池田景雄……………269
- 4 小川祐忠……………269

三 関ヶ原の戦いと東予の領主たち……………269

- 1 加藤嘉明・藤堂高虎の伊予半国領主……………271
  - (一) 新屋敷村・大頭村など加藤領……………273
  - 2 藤堂高虎の内政……………275
  - 3 加藤嘉明の内政……………276
  - 4 豊臣・徳川時代初期の伊予国大名の領地……………280

第五章 小松藩一柳氏の統治……………281

- 一 小松藩主の先祖……………281
  - 1 小松藩主一柳氏の家系図……………281
  - 2 河野宣高、氏を一柳と改める……………281
  - 3 一柳直末の戦死と直盛の家督相続……………283

- 4 一柳直盛西条藩主に転封……………283
- 5 一柳直頼小松一万石を分与される……………285
  - 一一 小松藩政の展開……………286
    - 1 基礎確立期の藩主……………286
      - (一) 藩祖直頼の入部と陣屋建設……………287
      - (二) 二代直治の基礎確立……………289
        - (1) 仏心寺の開山……………289
        - (2) 御朱印状を拝領……………289
        - (3) 宗家西条藩の改易に治安維持を命ぜられる……………289
        - (4) 伊豆守直末の首塚を改修する……………289
        - (5) 領内の地改を実施……………289
        - (6) 新田畑の開発……………289
        - (7) 家訓一七条の制定……………289
        - (8) 巡見使の巡見と駿河加番の勤務……………289
        - (9) 元禄文化が小松に波及……………289
        - (10) 直治のお物数奇……………289
    - 2 守成期の藩主……………302
      - (一) 賢人のような三三代頼徳……………302
        - (1) 頼徳の人となりと時代の風潮……………302
        - (2) 事績……………302
        - (3) 頼徳の人物評価……………302
    - 3 財政窮乏期の藩主……………307
      - (一) 四代頼邦の改革と享保の大飢饉への対処……………307

- (1) 頼邦の特技と趣味……………324
- (2) 行政組織の改革……………324
- (3) 享保の大飢饉の発生……………324
- (4) その他の事績……………324
- (5) 財政窮乏と頼邦の苦悩……………324
- (二) 五代頼寿の努力……………324
  - (1) 頼寿の概略……………324
  - (2) 米の増産と年貢確保のための施策……………324
  - (3) その他の事績……………324
  - (三) 六代頼欽・竹鼻正脩を登用……………327
    - (1) 竹鼻正脩の登用……………327
    - (2) 異常気候と慢性的飢饉……………327
    - (3) 竹鼻正脩の活躍……………327
  - (四) 七代頼親の時代……………344
    - (1) 概況……………344
    - (2) 藩校の開設……………344
    - (3) 一柳左膳の参政と御一家体制……………344
    - (4) 伊能忠敬らの海岸測量と今在家村宿泊……………344
    - (5) 藩札の整備と儉約令……………344
    - (6) 国産品・換金作物の収益が上り始めた……………344
  - 4 幕末・維新の混乱期と小松藩の対応……………359
    - (一) 八代頼紹の事績と攘夷と尊王……………362
    - (2) 黒船来航以後の事績(田岡俊三郎の勤王活動)……………362
    - (3) 小松藩の終末……………362

三 藩政展開上の補完事項

1 藩主の生活……………397

(一) 在邑時の生活……………397

(1) 在邑の期間 (2) 藩主が生活する御殿 (3) 政務 (4) 儀式 (5) 御廻村 (6) 側室 (7) 余暇の趣味

(二) 参勤交代と在府中の生活……………403

(1) 小松藩の参勤の時期と行程 お供の人数と参勤交代の費用 (2) 江戸藩邸での生活 (3) 江

(三) 駿河加藩……………412

2 藩主の陣屋と武家屋敷……………413

(一) 初期の藩主陣屋と武家屋敷……………413

(二) 後期の藩主御館と武家屋敷……………414

(三) 新御殿の造営……………415

3 行政の中枢機関であった会所……………416

(一) 会所の構造……………417

(二) 会所の勤務……………417

4 家臣団について……………418

(一) 家臣の数の……………418

(二) 家臣団の形成過程……………419

(1) 初期の家臣団について (2) 中期の上級家臣団 (3) 家臣団の格・役職・序列と禄高人数 (4) 足軽以下軽輩者の自宅通勤と宗門の取扱い (5) 終末期の家臣団 (6) 小松藩家臣団の特色 (7) 喜多川家の功績

5 藩の年間定例行事……………433

6 通信・連絡と船舶による輸送……………437

(一) 領内と隣領への通信・連絡……………437

(二) 船舶による輸送……………438

(三) 江戸藩邸との通信と物資の輸送……………439

7 小松藩のお仕置(刑罰)……………441

(一) 軽犯罪の例……………441

(1) 耕作怠慢 (2) 統制価格の違反 (二) 博奕に対するお仕置……………441

(1) 田沼意次から密告制度による博奕禁止令が出る (2) 博奕に対するお仕置の例

(三) 追放のお仕置……………443

(1) 盗賊宿のお仕置 (2) ゴマの灰行 為のお仕置 (3) 裸体引廻しのお仕置 (4) 過失致死で追放……………444

(四) 相对死(心中)のお仕置……………444

(五) 死罪(斬罪)のお仕置……………445

(六) 死罪特赦のお仕置……………446

8 小松藩の土地制度……………447

(一) 『御差出』による蒲生時代の土地制度……………447

(二) 領知朱印状の別紙目録にある村高……………452

(三) 地改の実施……………452

(1) 地改の基本方針……………455

(四) 妙口村の地改帳……………455

(五) 地改の結果……………455

(六) 地改以後の土地制度……………460

9 小松藩の租税……………461

(一) 年貢の概要……………461

(二) 江戸時代の租税の特徴……………461

(1) 米納による正租と雑税 (2) 年貢の村請制 (3) 米の作柄によって決まる免(税率)……………461

(三) 小松藩の租税の種類……………462

(1) 納榭の使用 (2) 租税の種類 (3) 年貢目録と年貢の内分け……………469

(四) 小松藩全体の正租高……………469

(1) 常識的な目安 (2) 享保時代の取 簡 (3) 幕末期の小松藩の正租……………470

(五) 千足山村の租税……………470

(1) 正租について……………475

10 大坂蔵屋敷とその商人たち……………475

(一) 蔵屋敷……………475

(1) 名代綿屋長兵衛 (2) 蔵元千屋宗 十郎 (3) 鹿島清兵衛なる人物……………475

11 藩財政の構造……………476

(一) 嘉永四年度の御勘定帳……………476

(1) 二冊の御勘定帳……………477

(二) 勘定の上での特色……………477

(1) 藩の勘定(会計)年度 (2) 勘定の方法……………482

(三) 嘉永四年度御勘定表の考察……………482

(四) 数量面からの考察……………482

- (1) 米の収入と支出 (2) 銀の収入と支出 (3) 江戸・大坂御入用
- (四) 構造面からの考察.....485
- (1) 年貢収入だけでは賄えぬ藩財政
- (2) 参勤交代費が突出した藩財政 (3) 多額の借財を抱えた藩財政
- (六) 突発的な臨時御入用は御用達や上層領民の上納に頼った.....487
- 12 藩札(発行以後の効用と変化).....488
- 13 領界・水利論争.....500
- (一) 石鉄(鎗)山別当・境界論争.....500
- (二) 明穂・大頭両村境界論争.....508
- (三) 大頭・長野村釜之口両井堰の水論.....510
- (四) 渦井川(さけ川)大生院村上・下ノ井堰の築造とさけ川井手の水論.....513
- 四 在と町に関する事項.....517
- 1 近世の村の成立.....517
- (一) 在町の呼び方.....517
- (二) 近世の村の誕生.....517
- (三) 中世のまま変革のなかった村の祭礼.....518
- (四) 近世の村のモデル数値.....518
- 2 小松藩開藩直前の農村の様子.....519
- (一) 当時の世相.....523
- (二) 前領主蒲生時代の土地の状況.....523
- (三) 当時の村柄と農民の構成.....524
- (1) 村柄「中の上」 (2) 村民は少数の御百姓と多数の従属農民で構成されていた。 (3) 家構え.....526
- 3 新田畠の開発.....526
- (一) 新田畠の呼称と日本の新田畠.....526
- (二) 小松藩の新田畠の開発.....527
- (1) 新田畠の開発状況 (2) 数量的考察から (3) 開発年代からの考察 (4) 干拓新田の特色.....529
- (三) 代表的な新田畠の開発状況.....529
- (1) 妙口村の新田開発 (2) 下三村の干拓新田の開発 (3) 第二開発期の干拓新田の特色.....545
- (四) 下三村の干拓新田の壊滅.....546
- (一) 下三村の新田の復旧(再開発).....546
- (1) 広江村の新田再開発 (2) 北条新田の再開発 (3) 今在家村蔵井新田の再開発.....580

- 再開発.....580
- (六) 新田畠の藩財政への寄与と問題点.....583
- 4 農業振興対策.....584
- (一) 下三村の農業振興対策.....584
- (二) 大賑手見の復活.....585
- (三) 新しい産業の育成.....588
- 5 村や町の主立つ者.....588
- (一) 村や町の役人.....588
- (1) 庄屋と町年寄 (2) 組頭 (3) 百姓代 (4) 代表的庄屋の系譜とその一族.....572
- (二) 御用達.....572
- (1) 御用達の仕事 (2) 御用達を務めた人々 (3) 御用達が藩に貢献した時期 (4) 御用達飯尾庄屋家の献金、用達の状況 (5) 飯尾家に対する藩の取扱い (6) 藩全体の上納額と上納者の取扱い (7) 御用達の果たした役割と末期の御用達.....579
- 6 年貢米の取り立て.....579
- (一) 年貢収納の準備.....579
- (二) 年貢米の内容と条件.....580
- (三) 年貢米の収納と津留.....580
- (四) 小松藩の米の積出し港.....581
- (五) 地区別の年貢皆済競争.....581
- (六) 村民が負担する全税額と農家の経済.....581
- 7 逃散などの農民騒擾.....582
- (一) 小松藩内の農民騒擾.....583
- (1) 北条村の事件 (2) 千足山騒動 (二) 他領から小松藩への逃散事件.....586
- 8 災害と疫禍.....589
- (一) 地震.....589
- (1) 文禄五年の大地震 (2) 宝永四年の大地震 (3) 嘉永七寅年の大地震 (二) 水害.....595
- (1) 天明、天保の大飢饉 (二) 天明の大飢饉 (2) 天保の大飢饉 (三) 疫病禍.....599
- (1) 飢饉と疫病 (2) コレラ(暴病)の蔓延 (四) 火災.....601
- (1) 大頭村の大火 (2) 小松西町の大火.....601

火

9 藩主の御廻村 ..... 602

(一) 御廻村の目的 ..... 602

(二) 村々での準備と御通過 ..... 603

(三) 天保一〇年、八代頼紹の御廻村の様子 ..... 603

(1) 上通り筋の御廻村 (2) 中通り筋  
(北川・吉田・周布村)の御廻村 (3) 下通り筋の御廻村 (4) 新居郡の御廻村

10 庶民の生活の向上 ..... 614

(一) 歴代藩主の農村触から ..... 615

(1) 中期三代のお触れから (2) 後期  
二代の天明と文政の儉約令から

(二) 庶民の住居の変化から ..... 622

(1) 藩政初期の住居 (2) 中期以後の住居

(三) 他国の寺社参りの状況から ..... 628

(1) 寺社参りと行き先 (2) 小松領民  
の他国の寺社参りの状況 (3) 往来手  
形 (4) 旅行の見送りと出迎え

(四) 非常事態における領民の献金の状況から ..... 632

11 その他 ..... 643

(一) 小松舟山玉盗り騒動 ..... 643

(二) 下三村の非常時対策の許可願 ..... 645

12 小松商人町の発展と町人の努力 ..... 645

(一) 小松の商人町の機能 ..... 645

(二) 特別行政地区としての小松の町 ..... 647

(三) 町の繁栄のための力添え ..... 647

(四) 町の発展と町人の様子 ..... 649

(1) 藩政初期に活躍した商人と地藏尊の建  
立 (2) 藩政中期の商人と町の様子  
(3) 幕末期の町の様子

13 松山領赤尾村と安井村 ..... 659

14 小松藩領内の村々の概要表 ..... 661

近代・現代

第六章 明治維新期の小松町域 ..... 669

一 県・郡・町村の編成 ..... 669

1 教育令による学校 ..... 735

2 諸学校令による学校 ..... 737

第七章 市町村制公布から郡制廃止ま  
での郡町村と住民の動き ..... 743

一 町村制下の町村と町村会の発足 ..... 743

二 小松町域各村の歩みと住民 ..... 750

1 千足山村 ..... 750

2 石根村 ..... 755

3 小松村 ..... 758

三 新郡制の歩みと小松村(町) ..... 762

四 日清・日露戦争と村民 ..... 770

1 日清戦争 ..... 770

2 日露戦争 ..... 773

五 大谷池築造 ..... 781

六 煙害と農民の動き ..... 785

1 四坂島の煙害 ..... 785

2 千原鉱山煙害と農民 ..... 802

1 廃藩置県と小松 ..... 669

2 愛媛県の成立と大区・小区制 ..... 671

3 大小区下の民会 ..... 677

4 三新法下の郡・町村 ..... 678

5 松方デフレ下の小松町域各村と村民 ..... 683

6 戸長官選以後 ..... 687

二 学校の設置と教育 ..... 691

三 廃仏毀積と小松キリスト教会 ..... 697

1 廃仏毀積 ..... 697

2 小松キリスト教会 ..... 701

四 徴兵制と小松町域の住民 ..... 703

五 地租改正と農民のくらし ..... 709

1 地租改正事業 ..... 709

2 地租金延納願 ..... 721

六 秩禄処分と士族授産 ..... 723

1 秩禄処分 ..... 723

2 士族授産 ..... 731

七 教育令・諸学校令による学校 ..... 735

七 北海道移民……………806

八 米騒動と小松町域……………811

第八章 第一次世界大戦後の郡町村と

住民の動き……………813

一 大戦後の郡町村の動き……………813

1 町村会選挙制度の改正と郡制廃止……………813

2 国鉄小松駅と駅前通……………813

3 石根村部落有財産の統一……………814

4 村設産婆と託児所……………816

5 小松小学校移転問題……………816

二 地主制と農民……………817

1 地主制の確立……………817

2 慣行小作権……………829

3 地主・小作関係……………823

三 小作争議と農民運動……………835

1 米穀検査反対の運動……………835

2 農民組合と地主組合の結成……………839

(一) 農民組合の結成……………839

(二) 地主組合の結成……………843

3 小松町域における農民組合の活動……………851

(一) 日農県連小松支部の活動……………851

(二) 日農県連石根村支部の活動……………862

4 労働党県連合会周桑支部の活動……………864

5 農民組合の弾圧と小作争議の終結……………870

四 恐慌下の町村……………874

1 自作農創設……………874

2 生活改善運動……………875

3 小松町小作争議調停……………875

4 時局救済事業……………876

5 戦時中のくらし……………878

第九章 第二次世界大戦終了後の小松町域……………881

一 戦後自治体の出発……………881

二 農地改革と農村の変化……………884

三 教員の勤務評定反対闘争と文部省全国一

齊学力テスト……………891

1 教員の勤務評定反対闘争……………891

2 文部省全国一齊学力テスト……………893

行政・財政編

第一章 行政区画の変遷……………903

一 明治初期の行政区画……………903

1 廃藩置県以後の県、郡、村……………903

(一) 小松県から愛媛県へ……………903

(二) 大区、小区制の実施……………903

2 町村政、郡制の推移……………904

(一) 三町村の成立……………904

(二) 郡制の推移……………905

二 旧町村の歴代三役……………907

三 町村合併促進法による合併……………912

1 町村合併のながれ……………912

(一) 町村合併促進法の公布……………912

(二) 石根村を二分する合併論議……………913

(三) 小松町の成立……………915

四 その後の合併の動き……………921

四 町政の概況……………923

1 町制施行……………923

(一) 町章の制定……………923

(二) 小松町歴代の三役……………924

(三) 行政事務機構……………925

(四) 各種委員会……………928

(五) 役場本庁その他の移転、建設及び廃止……………929

第二章 財政……………932

一 旧町村の財政……………932

二 小松町の財政……………932

1 町村合併時の財政運営方針……………932

2 最近の行財政重点施策……………934

3 小松町新総合計画による財政運営方針……………937

第三章 社会福祉……………941

一 社会福祉と町行政……………941

1 生活保護……………941

2 老人福祉……………942

3	児童福祉	944
4	母子福祉	947
5	身体障害者福祉	949
6	精神薄弱者福祉	951
二	国民健康保険と国民年金	951
1	国民健康保険	951
2	国民年金	955
三	社会福祉協議会	956
第四章	選挙	958
一	選挙制度の変遷	958
二	国及び地方選挙	959
第五章	保健衛生	985
一	衛生行政の沿革	985
1	衛生行政のはじまり	985
2	旧町村時代の衛生行政	986
3	隔離病舎	987
二	現代の保健衛生行政	988
三	公立周桑病院	990
四	大保木診療所	993
第六章	環境衛生	995
一	上水道	996
二	下水道	997
三	清掃事業	998
四	火葬場	1004
五	公害対策	1005
1	公害行政の概要	1006
(一)	公害対策審議会	1006
(二)	公害苦情の現状	1008
(三)	大気汚染緊急時の措置	1009
第七章	消防・警察	1010
一	消防	1010
1	町火消から公設の消防組へ	1010
2	消防団の活動	1012
3	少年消防クラブ	1015
4	周桑消防署	1016
二	警察	1020

1	警察制度の成立と変遷	1020
2	自治体警察より国家地方警察へ	1023
第八章	土木建設	1029
一	道路	1029
1	国道	1029
(一)	国道二一号线	1029
(二)	国道一九六号線	1030
2	県道	1030
3	町道	1031
4	農林道	1036
(一)	農道	1036
(二)	林道	1036
5	高速道路	1036
(一)	四国縦貫自動車道	1036
(二)	高規格幹線道路	1036
二	河川・砂防	1037
1	河川	1037
2	砂防	1039
三	都市計画	1040
1	都市計画の変遷	1040
2	公園	1047
四	公営住宅	1049
第九章	行政と自治会	1052
一	広報と行政	1052
1	住民組織と広報	1052
2	広報紙の発行	1053
3	自治会と行政	1054
産業・経済編		
第一章	産業・経済発展の歴史と展望	1057
一	産業・経済の歴史的条件	1057
1	自然的条件	1057
2	社会的条件	1057
二	産業の推移	1058
1	藩政時代の産業	1058
2	戦前の産業	1059

3 戦後の産業.....1059

第二章 農業

4 耕地整理.....1094  
    (一) 妙口地区耕地整理.....1095  
    (二) 北川地区耕地整理.....1097  
    (三) 小松地区耕地整理.....1099

一 明治期の農業

5 昭和恐慌期の農村と経済更生運動.....1109

1 概観.....1061

三 戦後の農業の展開

2 勸農及び農業改良施策の展開.....1062

1 農地改革と農業経営.....1108

3 稲作技術の進歩.....1064

2 土地改良・水利事業.....1112

4 耕地及び農家の変遷.....1071

5 農産物の変遷.....1076

(一) 小松町有林の開放によるみかん団地の造成.....1112  
(二) 石根地区高岸の開田事業.....1115

6 農業団体の成立.....1080

(三) 道前道後農業水利事業.....1116

二 大正・昭和時代(第二次世界大戦まで)の農業及び農村問題

3 農業生産の推移.....1118  
    (一) 米.....1120  
    (二) 麦.....1121  
    (三) 果樹.....1123  
    (四) 野菜.....1128  
    (五) 養蚕.....1130  
    (六) 工芸作物.....1131  
    (七) 畜産.....1131

1 概観.....1083

2 経済の変動と農家対策.....1085

「自作農創設維持補助規則」をめぐって.....1089

3 副業の変遷.....1089

4 農業協同組合.....1134

(一) 副業の奨励.....1089

(二) 養蚕の変遷.....1089

(三) 養蜂・果樹.....1092

(一) 協同組合の成立から合併へ.....1134

(二) 周桑農業協同組合.....1135

(三) 東子園芸農業協同組合.....1135

(四) 周桑農業共済組合.....1137

四 二二世紀農業の展望.....1138

第三章 林業

2 資源利用の推移.....1159

一 林業の沿革

3 制限林.....1160

1 千足山村の林業.....1141

4 共有林.....1161

(一) 林業の工夫.....1141

(一) 妙口愛林会.....1161

(二) 焼畑と副林産物.....1146

(二) 大頭愛林会.....1162

二 藩政時代の林業

(三) 第一区愛林会.....1162

1 御林山.....1154

(四) 第二区愛林会.....1164

2 百姓持山.....1154

(五) 大郷愛林会.....1164

3 入会持山.....1154

(六) 明穂生産森林組合.....1165

三 明治以降の林業

(七) 安井生産森林組合.....1165

1 地租改正.....1158

(一) 国有林.....1159

(二) 民有林.....1159

(三) 公有林.....1159

第四章 商業・工業

一 商業

1 明治以降の商業の変遷.....1172

- (一) 当時の町並と商業……………1172
- (二) 常盤組の役割と変遷……………1182
- (三) 伊予小松駅前商店街……………1183
- 2 戦後の商業……………1186
  - (一) 経済の復興……………1186
  - (二) 大型店(スーパー)の進出……………1190
  - (三) 小松町商業の推移……………1191
  - (四) その他の商業……………1194
- 二 工 業……………1195
  - 1 明治以降の工業の変遷……………1195
    - (一) 主たる工業……………1195
    - (二) 電気、鉄道開通による変化……………1201
  - 2 戦後の工業……………1203
    - (一) 工場誘致による新企業団……………1205
    - (二) 工業の現況……………1207
- 三 小松町商工会……………1209
  - 1 商工会の起源……………1209
    - 小松町商工会の推移……………1209
    - 2 商工会の法制化……………1211
      - 小松町商工会の創立……………1211

第五章 交通・通信・電気・金融

- 一 交 通……………1214
  - 1 幹線道路の発足……………1214
    - (一) 石鎚山登山道と廻路道……………1218
    - (二) 県・町村道の発達……………1222
  - 2 交通運輸機関の発達……………1229
    - (一) 荷車、荷馬車、人力車、客馬車、自転車の普及……………1229
    - (二) バス、タクシーの交通……………1230
    - (三) 自家用車の普及……………1232
- 3 鉄 道……………1233
  - (一) 讃岐線(予讃線)……………1233
  - (二) 伊予小松駅開通……………1235
  - (三) 戦後の鉄道輸送……………1235
  - (四) JR四国……………1236
- 二 通 信……………1237
  - 1 郵便の沿革……………1237
  - 2 電信・電話……………1241
  - 3 農協有線放送事業……………1243
- 三 電 気……………1243

- 1 小松町の電灯のはじめ……………1243
  - 四 金 融……………1244
    - 1 金融業界の変遷……………1244
      - (一) 西条銀行……………1245
      - (二) 伊予銀行……………1246
      - (三) 東予信用金庫……………1247
      - (四) 生命保険会社……………1247
      - (五) 信用購買販売利用組合と周桑農協……………1247

教育編

第一章 小松藩政時代の教育

- 一 小松藩武士の教育……………1255
  - 1 藩主の好学と竹鼻正脩……………1255
  - 2 藩校培達校・養正館の創設……………1256
    - (一) 近藤篤山の招聘……………1256
    - (二) 養正館の教育……………1258
  - 3 近藤篤山の薫陶……………1261
  - 二 篤山の私塾……………1258
    - 1 挹蒼亭、緑竹舎……………1268

第二章 学校教育

- 一 近代教育の発足……………1284
  - 1 学制頒布と学区の設定……………1284
  - 2 小学校設立と就学督励……………1287
- 二 学校教育の整備と発展……………1295
  - 1 小学校教育の発展と教育勅語渙発……………1295
  - 2 中学校教育の発展整備……………1302
    - (一) 中等教育の発足……………1302
    - (二) 勤労青年の教育……………1334
- 三 戦時中の教育……………1345
  - 1 国民学校の発足……………1345
  - 2 戦時の教育と勤労奉仕……………1346
  - 3 学童疎開……………1349
- 四 新しい学校制度の発足……………1352

1	終戦直後の教育	1352
2	新学制の発足(六、三、三、四制)	1354
3	学校教育の進展	1356
(一)	教育内容の改訂	1356
(二)	給食の普及	1363
4	各小学校、中学校区沿革	1364
(一)	石鎚小学校区沿革	1366
(二)	石鎚中学校区沿革	1372
(三)	石根小学校区沿革	1376
(四)	小松小学校区沿革	1380
(五)	小松中学校区沿革	1386
5	高等学校の再編成	1342
6	幼児教育	1395
7	教育委員会	1398
8	教員組合と勤評闘争	1401
9	教育の研究組織、その他	1403
(一)	愛媛県教育研究協議会	1403
(二)	愛媛県教育会及び周桑教友会	1403
第三章	社会教育	1405
一	戦前の社会教育	1405
1	若衆組	1406
2	青年団	1408
3	婦人会	1410
二	戦後の社会教育	1412
1	戦後社会教育の発足	1412
2	公民館	1412
3	婦人会	1415
4	青年団	1416
5	P・T・A	1417
6	愛護班	1420
7	若者塾	1421
8	小松町文化協会	1422
9	社会教育施設	1422
(一)	小松町立中央公民館	1422
(二)	小松勤労者体育センター	1423
(三)	武道館	1423
(四)	小松中央公園	1424
(五)	温芳図書館	1425
三	小松町新総合計画における社会教育	1427

1	生涯学習	1427
2	青少年の育成と社会環境づくり	1428
3	婦人・高齢者の能力の活用	1429
4	町民のグループ活動	1429
5	社会教育施設	1430
第一章	宗教と信仰生活のあゆみ	1433
一	遠い祖先たちの信仰	1433
1	神々の誕生	1433
2	産土神・氏神・鎮守神	1433
二	古代の宗教	1434
1	仏教伝来と神道	1434
(一)	仏教伝来とその発展	1434
(二)	統一国家の樹立と神道	1435
2	古代法安寺の仏教	1436
3	社寺の由緒からみた古代の宗教	1436
4	弘法大師信仰と真言宗のひろがり	1439
5	石鎚信仰と修験道	1441
二	戦後の社会教育	1444
6	神と仏の結びつき	1444
三	鎌倉新仏教の誕生と神道	1445
1	身近な教え、念仏・禅・お題目	1445
2	新仏教のひろまりと神道の動き	1446
四	戦国の世と社寺	1447
1	戦国武將の攻防と社寺	1447
2	浄土真宗・曹洞宗伝わる	1447
五	幕藩政治の中で	1448
1	浄土宗・臨済宗伝わる	1448
2	宗門改めと檀家制度の確立	1449
3	戒名・過去帳・墓の習慣	1450
4	神道理論の展開	1452
5	神職たちの離壇運動	1452
6	人々のくらしと信仰	1453
(一)	祖先崇拜	1453
(二)	祈禱	1454
(三)	民間信仰	1455
(四)	四国遍路の盛況	1455
(五)	齒神さんとイボ薬師・イボ地藏	1456

(六) 地藏信仰

六 明治から現代へ

1 神仏分離と国家神道の成立

2 キリスト教伝道と小松教会の設立

(一) 小松伝道のはじめ

(二) 小松教会の設立

(三) 土族に入ったキリスト教

(四) 小さな群の苦闘

3 宗教の自由と新宗教

(一) 天理教

(二) 黒住教

(三) 霊友会

(四) 創価学会

4 信仰生活の現状

第二章 神社

高嶋神社／楠陵天満宮／三嶋神社／常盤神社／一ノ宮神社／藤之森神社／柳神社／諏訪神社／八幡神社／荒魂神社／石土神社／貴船神社／三島神社／新田神社／河内八幡神社

第三章 寺院

民俗編

第一章 村落社会の構造

一 村落社会のおこり

1 原始共同社会

2 共同社会の分化

二 支配構造の変化と村落社会

1 遺跡・出土品からみた村落

2 ほのぎからみた古代集落

3 封建社会の村落

4 小松藩の支配機構と村落

三 村落社会の人間関係

1 共済制度としての講

2 戦時下の村落

3 村落社会の芸能・文化

第二章 風俗・習慣

一 武家の生活

1 衣食住の生活

(一) 武家社会の服装

(二) 小松藩士たちの食生活

(三) 小松陣屋と武家屋敷

2 小松藩のしきたり

(一) 家中儀礼のこと

(二) 敬神崇祖

(三) 文武奨励のこと

(四) 領民へのねぎらい

(五) 狩と殺生・松茸がりのこと

(六) 贈答交際

(七) 出産から元服まで

(八) 医療のこと

(九) 服喪のこと

二 庶民の生活

1 衣服

(一) 江戸時代の庶民の衣服

(二) 文明開化と洋服の流入

横峰寺／本善寺／明勝寺／佛心寺／龍華院／宝寿寺／清楽寺／香園寺／香積寺／妙雲寺／天福寺／興雲寺／法安寺

(三) 洋服の時代

2 食 物

(一) 貧しかった農民の日常食

(二) 物日の料理

(三) 食糧難のころ

(四) 豊かになった食生活

3 住 まい

(一) 草葺中心のころ

(二) 草葺から瓦葺へ

(三) いまの住まい

4 村のしきたり

(一) 出生から成人式まで

(二) 結 婚

(三) 厄年と年祝

(四) 葬 儀

(五) 新盆と坊日

(六) 法 事

三 年中行事

1 正月の行事

Table with 2 columns: Item description and page number. Includes sections for samurai life, commoner life, clothing, and festivals.

Table with 2 columns: Item description and page number. Includes sections for Western clothing, food, housing, and village customs.

2 春から夏の行事 ..... 1551

3 盆の行事 ..... 1558

4 秋から冬への行事 ..... 1559

四 俗 信

第三章 民話・伝説

1566

1562

第四章 郷土芸能と民謡

一 郷土芸能

1 獅子舞 ..... 1587

2 お山の水 ..... 1588

3 トンカカさん(はん) ..... 1589

4 ひちぶし ..... 1591

5 小松だんじり祭り ..... 1598

二 民謡と童謡

1 労働の中の歌 ..... 1598

2 盆踊り歌 ..... 1601

3 祝い歌と祭り歌 ..... 1604

4 わらべ歌 ..... 1606

第五章 俚諺・方言

一 俚 諺

1609

1609

二 方 言

1612

文化財・諸芸・観光編

第一章 文化財

一 有形文化財

1 建造物 ..... 1627

2 古文書 ..... 1635

3 書跡・絵画 ..... 1637

4 彫刻・工芸品 ..... 1646

5 古墳・考古資料 ..... 1650

6 石造物 ..... 1660

二 記念物

1 史 跡 ..... 1661

法安寺塔跡／近藤篤山旧邸／小松藩公館跡／幻城跡／剣山城跡／獅子ヶ鼻古塁／松尾城跡／旧小松藩主一柳家墓所／矢野玄道先生来訪の地

2 天然記念物 ..... 1670

広葉杉／チシヤの木／明石蓮／有楽

第二章 石 碑

1673

1 俳 諧 ..... 1694

(一) 藩政時代の俳諧 ..... 1695

(二) 長谷部映門と菊圃について ..... 1697

(三) 昭和以後の小松俳壇 ..... 1700

2 和 歌 ..... 1703

(一) 藩政時代の連歌と和歌 ..... 1703

(二) 森田義郎について ..... 1710

(三) 昭和以後の短歌 ..... 1711

3 漢詩、日記、紀行、随筆 ..... 1713

4 川 柳 ..... 1716

第三章 諸 芸

一 文 学

1 俳 諧 ..... 1694

(一) 藩政時代の俳諧 ..... 1695

(二) 長谷部映門と菊圃について ..... 1697

(三) 昭和以後の小松俳壇 ..... 1700

2 和 歌

(一) 藩政時代の連歌と和歌 ..... 1703

(二) 森田義郎について ..... 1710

(三) 昭和以後の短歌 ..... 1711

3 漢詩、日記、紀行、随筆

1713

1716

二 絵画・書

1718

三 技 能(珠算)

1722

第四章 観 光

1724

一 観光資源の現況と課題

1724

二 観光推進の機関・団体と主な事業

1724

三 小松町主要観光地と四国のみち

1725

1 旧小松地区観光地

1726

2 旧石根地区観光地

1728

3 旧石鎚地区観光地

1729

4 四国のみち

1732

四 観光への展望

1733

人物編

第一章 小松町先人録

1737

第二章 忠魂碑・戦没者

1756

一 忠魂碑などの建立

1758

二 戦病没者名簿

1809

年 表

1809

目次	
あとがき	小松町教育委員会 教 育 長
小松町誌編纂委員会委員名簿	久米津茂利
小松町誌各編執筆者名簿	

# 自然環境編